

箕面市の人口は、4月7日に13万人を突破しました。平成17年ころから平成20年4月までの数年間伸び悩んでいましたが、府内でも有数の「自然に恵まれた住宅都市」のイメージが定着し、住みたい街ランキングでも上位に食い込んでおり、ここ数年は人口の伸びが大きくなっていったものです。

箕面市が誕生した昭和31年の人口が34,804人だっ

箕面市の人口が
13万人に!

たことを思うと、隔世の感があります。日本全体では人口減少時代の始まりを迎え、大阪府内でもすでに減少が進んでいる市町村がある中、人口増はまちの活性化につながり、非常に意味のあることです。また全国的な少子化のなかで箕面市の子ども的人数は横ばいを保っています。倉田哲郎市長が「みどり」「支え合い」「子育て」の3つのコンセプトを着実に進めてきた結果といえます。



箕面市長倉田哲郎 まちづくりニュース

“市民のチカラ!”

2011年12月号

箕面の明日をつくる会 Fax 727-4326 箕面市小野原西1丁目10番34号



知ってる? 倉田市長のバンド活動 Q&A

Q どんなイベントに出演しているのよか?
A 主に箕面まつり、ライブラまつりですね。その他メイプルホールでのイベントにも参加させていただけます。日程さえ調整できれば、もっと多くのイベントに参加したいんですが…。音楽って、演奏する方も聴く方も一緒に楽しんで盛り上げられるので、もっともっと箕面を盛り上げて楽しんでいきたいです!



Q 多忙を極める倉田市長が、いったいいつ練習しているのよか、とても不思議ですが?
A 練習日程のやり繰りはとても大変ですが、なんとか恥をかかないようガンバっています。練習はストレッチ発散になりますし、施設の利用者の視点にも立つことができます。ですから、仕事においても大切なポイントですね。

Q バンド名とレパートリーを教えてください。
A (倉田市長) バンド名はhappyhappy(ハッピーハッピー)。ライブでお祭りのハッピーを着て演奏してみようってアイデアから、名付けました。レパートリーは、たくさんの人にお伝えできるように、どの世代からも支持されている曲を選んでます。ZARDの「負けないで」、沢田研二の「勝手にしやがれ」、それにアニメソングの「キューティーハニー」なんかもやりますよ。

みなさんは、倉田哲郎市長がバンド活動をしているのをご存知ですか? バンド活動について倉田市長にちょっと聞いてみました。

早いもので、市議会議員の皆さま方とともに市民の信託を受け、箕面市長という重責を担わせていただいてから3年が経過いたしました。

この間、所信表明で申し上げたとおり、愛すべき「箕面」にこだわり、「箕面」を一層明るく住みよいまちに、多くの方々に「箕面に住んでいて良かった」「箕面に住みたい」「箕面にずっと住み続けたい」、そう感じていただけるまちづくりを志し、また、次世代の子どもたちに自信をもって引き継げる「箕面」であることにこだわり続けてきました。

実際に、小中学校の100%耐震化やオレンジゆずるバス、子育て施策の新展開や、高齢者の生



活支援、山並みやみどりの保全まで、幅広い取組みを展開してまいりました。その一方で、子どもたちの世代へツケをまわさないよう、財政バランスの復元も着実に進めることができました。

来 年8月には、市議会議員の皆さまとともに任期満了を迎えることとなり、新年度は政治選択の年となります。私はかねてから申し上げていたとおり、

次期の市長選挙にも立候補し、引き続きこれまでと変わらぬスタンスで箕面市政を担う決意でおりますことを、この場をお借りして表明・ご報告させていただきます。

箕面市長 倉田哲郎

倉田哲郎市長は、以前から最低3期、つまり10年以上は腰を据えて仕事をしなければ意味がないと明言しています。倉田哲郎市長はこの3年半その判断力と行動力で、これまで停滞してきた市政や赤字体質の財政を大きく改革し、財政改革と未来への投資への道筋を示してきました。

私たち、箕面の明日をつくる会は、倉田市長のダイナミックな施策展開をさらに推し進め、「元気な箕面に」という思いの詰まった大切な種を、次の4年間でさらに大きく開花させてもらいたいと考えています。来夏に向け、ほんとうに多くの倉田哲郎市長への支持を広げていきたいと思っておりますので、これまで以上にみなさま方の力強いご支援をお願いいたします。

◆ 編集室に寄せられた声からご紹介いたします ◆

子育てにぴったりのまち、彩都

この春に、彩都栗生南に引っ越してきました。自然にあふれていて、ゆとりのある街並みがとても気に入っています。子どもを育てるのに抜群の環境で、まさに「みどりと子どもを育むまち」だと実感しています。

子どもも4月に開校したばかりの小中一貫校「彩都の丘学園」に通いはじめました。開放感のあるきれいな校舎も素晴らしいですが、倉田市長は彩都の丘学園を「関西における学力のフラッグシップ校」にすることを目標としているそうで、教育内容にも大いに期待しています。(K.Tさん)



とどろみを満喫!

箕面市のホームページを見て、朝から家族で止々呂美の朝市に行ってきました。車でトンネルを抜けてほどなく、朝市は思ったよりもたくさんの人で賑わっていて、新鮮なトマト、キュウリ、ナスなどの野菜のほか、焼き芋や豚汁もとても美味しく楽しめました。びわ、くわの実、柚子(ゆず)マーマレードなど、止々呂美の特産品も目白押しです。たくさん緑に囲まれて気持ちの良い朝の空気がなんとも言えません。余野川では溪流釣り&バーベキューも楽しめるので子どもたちも大満足。スローフードを身近に楽しめる箕面がますます好きになりました。(H.Fさん)

倉田哲郎さんのブログ 37歳の日記
<http://blog.kurata.tv/>

検索

ツイッター(つぶやき)へも、ココから!

携帯電話でも見られます <http://mobile.kurata.tv/>



37歳の日記 - 箕面市長 倉田哲郎ブログ <http://blog.kurata.tv/>

箕面の未来に向けて挑戦し続ける倉田哲郎市長の行動の軌跡を綴ったブログです。



止々呂美に “キャンプフィールド”!!

倉田哲郎市長の柔軟な発想と
行動力で実現！

●大阪都心部から30分、箕面グリーンロードを抜けてすぐの絶好の立地、箕面市止々呂美地域に、オートキャンプなど自然を満喫できるアウトドアスポット「スノーピーク箕面自然館」と「スノーピーク箕面キャンプフィールド」が誕生しました！

旧止々呂美小・中学校の跡地と、ダム計画が中止になった跡地を有効活用し、箕面の魅力を全国に発信できるアウトドアスポットをオープンしたのですが、この事業は倉田哲郎市長ならではの「発想の転換」と「大胆かつ緻密な戦略」があったからこそ実現できたものです。

平成21年10月、ダム事業の凍結を一方向的に決めた国に対し、倉田哲郎市長が、負担金の返還と放置されたダム事業用地の管理や有効活用を国交相に直訴したことが、全国紙で大きく報道されました。

一方で、当時、止々呂美地域では旧小・中学校跡地の活用策や地域振興策について、有効かつ現実的な解決策を見つけ出すことができず、膠着状態に陥っていたものを、倉田哲郎市長は、学校跡地を止々呂美地域のもつ豊かな自然や生活文化、漁場、農地、果樹園などの地域資源を活用した活性化の拠点施設とするとともに、ダム事業用地の一部を無償で借り受けてキャンプフィールドとして一体的に利用する事業展開を考え出し、国と交渉して実行に移しました。

施設の運営については、民間のノウハウを最大限に活用することにより、止々呂美の魅力を全国に発信し、持続的な地域振興策を展開することとし、公募の結果、アウトドア用品で世界的に事業を展開している

有名ブランド、スノーピークが施設の管理者となり、市からの補助金無しで運営しています。

自然館には、講座や会議に使える体験学習室や施設利用者のための入浴施設、地元特産品の加工室があり、ダム事業の跡地を活用したキャンプフィールドとあわせて、初心者からベテランキャンパーまで楽しめる体制が整備されています。ダム負担金の返還についても、交渉の結果、国が前例のない形で市の主張を取り入れ、返還する方向で決着することとなりました。そのいずれもが、倉田哲郎市長の卓越した行動力と状況判断能力のなせる業といえます。

思いを東日本へ!!

真に住民のために機能する
防災体制をめざして！

●3月11日に大地震が発生した直後に、倉田哲郎市長はいち早く緊急消防援助隊の派遣を決め、その日のうちに8名の消防隊員が被災地に向け出発しました。その後も、消防隊員、水道職員をはじめ30名を超える職員が現地に派遣され、支援活動が続けられています。建築職や保健師など、その専門性を活かし、2～3ヶ月間継続して滞在し、被災地の業務の支援を行っています。

また本市においても、ヴィンラでの募金活動をはじめ、



ほとんどの公共施設に義援金箱を設置し、市民の方々の支援の志を集めたり、避難者の受け入れのために、市内のご家庭や社宅等を提供いただく取り組みなど、災害発生直後から、的確で迅速な支援策を次々と打ち出してきました。5月には、大阪府市長会に呼びかけて倉田哲郎市長自身が被災地を訪れ、災害の状況を肌身でつかみ取り、心のかよった支援につなげています。

箕面市の防災体制

災害は決して他人事ではなく、箕面市においてもいつ大規模な災害が発生してもおかしくありません。倉田哲郎市長は、今回の大震災の経験をふまえて、改めて防災・危機管理体制の強化を図っています。8月に静岡県富士宮市と締結された「災害時相互応援協定」は、近隣府県におよぶ大規模災害が発生した際、近隣同士では支援ができないため、ある程度の遠隔地にあることで、お互いに災害時支援が可能となる…という考えに基づいたものです。

また今回や阪神淡路の大震災の経験からも、災害発生時には、行政だけではすべての対応はできません。そのため、市民一人ひとりの防災意識の醸成、日頃から顔の見える関係や、地域における支えあいの大切さを改めてうたえらるとともに、各小学校区ごとに、自治会等の地縁組織などによる地区防災委員会を組織いただき、避難所運営や住民の安否確認などを担っていただくといった、本当に機能する防災体制をめざして、さらに力を注いでいます。

「高齢者のごみ出し 応援モデル事業」 を始めます

●平成23年度の新規事業のひとつに、「高齢者のごみ出し応援モデル事業」があります。高齢化の進展につれて、ごみを集積場まで出せずに困っておられる高齢者のかたが増えています。

昨年、市が実施した「独居高齢者等実態調査」でも、「日常生活の中で困っていること」として、ごみ出しが上位にあがっていました。そこで、地域で高齢者世帯のごみ出しを手伝っていただける自治会やこども会に報奨金を交付する「高齢者のごみ出し応援モデル事業」が今年度から試行実施されることとなりました。



最大のねらいは、ごみ出しでお困りの高齢者に対する支援ですが、そのごみ出しの際のちょっとした会話から始まる地域のつながりも重要な目的で、この事業が結果として、人と人との絆を深めることに繋がればとの思いが込められています。

こうした新しい取り組みは、机の上であれこれ思い悩むのではなく、実際に試行して課題を検証し、よりよい制度へと作り上げていくことがとても重要です。

自治会やこども会の皆さん、ごみ出しを通じたご近所でのちょっとした助け合いにご参加いただけませんか。地域での安心・支えあいで世界に類を見ない超高齢社会を豊かに乗り切っていきませんか。